

現在の活性化センターの場所では物産館の設置は困難であると考えています。

西沢産業課長

牟岐町活性化センターの利用状況は、河内活性化センターで、6月28日一日カフェの「オニカフェ」で約300人の来場、7月12日映画上映会の「カントア！テイモール」で35人の来場で、今後の予定は、まちづくりを考えるワークシヨップ、弁柄染めワークシヨップ、帽子作りワークシヨップ、藍染めワークシヨップ等です。中村活性化センターは、8月16日「サマースクール」に約100人の参加、8月17日から25日「家具作りワークシヨップ」に14人の参加、8月26日「むぎ未来会議」に約50人の参加がありました。今年度はあと4回ほど開催予定です。物産館については、立地場所や観光客が立ち寄りやすく、大型車が進入しやすい等を考慮し、慎重に考えたいと思います。活性化センターの利用規

程は現在調整中で、早急に作成したいと考えています。

ホームページの問合せは

横尾議員

牟岐町HPには、「このHPの全体的な構成に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想、ご要望などは、牟

岐町役場総務課までお願いします。」とありますが、今まで問い合わせ等はあったのか。

仁田総務課長

HPの中身の問い合わせについては、電話等であつたかもわかりませんが、その記録がありませんので問い合わせ内容については不明です。

牟岐町町政施行百周年記念事業に「町政百年史」の発行を

榮 和男 議員

「白菊、黄菊咲き匂う大正四年十一月、いとまかしこき大君の御即位式を記念して、町政しきし牟岐の町」(牟岐町勢歌・作詞中西環)の出だしの部分です。牟岐町は大正4年(1915年)11月10日に京都御所紫宸殿(ししんでん)で大正天皇の即位の礼が行われ、その11月10日を記念して牟岐村から牟岐町となり、以

来、今年の11月10日で百周年を迎えることになりました。そこで「牟岐町政百周年史(あゆみ)」を編纂、発行し、後世に歴史を伝えることにはしてはどうか。

福井町長

現在の牟岐町史は、町政60周年を記念して作成され、昭和49年までの出来事が記載されています。

町史の発行は多くの労力と費用を要し、役場の通常業務の他、防災や地方創生に多くの労力を要する中、現時点では、後に送りたい業務ではあります。町村合併で全国的にも100年を迎える市町村が少ないことや前町史以降、これまでの40年間に昭和51年の豪雨災害、鬼ヶ岩屋温泉の建設、モラスコむぎの建設、海の総合文化センターの建設、小学校の合併移転等、多く



牟岐町史「昭和51年発行」

編集後記

2015年も残り僅かとなりますが、お酒を飲む機会が増える季節。ロンドン大学の研究グループが検証した結果、過去1年以内にアルコールを飲んだ人は、全く飲んでいない人に比べて心筋梗塞の発症リスクは0.87倍と低くなる結果が得られたそうです。しかし、1日4杯、5杯の深酒をしてみようと心筋梗塞のリスクは一気に上昇してしまいます。やはり何でもほどほどが一番ですね。

電話 七二―三三二二  
「広報編集委員会」